

再編・統合説明会 記録

日時：平成 30 年 11 月 19 日（月）15：00～16：10

場所：相模原教育会館 3 階大会議室

参加者 9 名

司会 井上 信二（城山高校副校長）

1 開会のことば 大石 進（城山高校校長）

2 県立高校改革の取組み 宮本 晋（総務室県立高校改革担当課長）

I 県立高校改革について

来年度から、県内全校でコミュニティ・スクールが導入される。以前 166 校あった県立高校は現在 142 校までになった。再編・統合の背景には、中学生の生徒数の減少があり、生徒数の動向に応じて進めている。県内を 5 つの地域に分け、この県央・相模原地域では、すでに第 I 期で弥栄高校と相模原青陵高校が再編・統合される。また、参考までに、相原高校が 4 月から移転する。

II 城山高校・相模原総合高校における再編・統合について

相模原地区の状況は、区別年少人口（0～14 歳）が中央区や南区に比べて緑区が急減することから、緑区を対象に検討した。緑区の中央に位置する城山高校の敷地を使うことにした。城山高校の ICT 利活用授業と相模原総合高校のプログラミング教育が一緒になる事で、情報教育に強みをもつ単位制による全日制普通科高校として設置する。新校設置は、平成 35 年度（2023 年度）からで、相模原総合高校は平成 33 年度入学者選抜から募集停止する。平成 33・34 年度入学生は、城山高校で入学し、新校で卒業する。ただし、入学時の全日制普通科の教育課程は 3 年間保障する。他の地域では、瀬谷と瀬谷西、逗葉と逗子、厚木東と厚木商業がそれぞれ再編・統合される。

III 新たな高校設置に向けて

両校の教員及び教育委員会で構成される準備委員会を設置し、新校の教育課程の検討や再編・統合にかかる課題の整理などを行う。校名は平成 34 年度に決定される見込みで、校歌・校章・制服等も今後、検討する。なお、城山高校・相模原総合高校の教育課程は生徒の卒業まで保障する。

3 城山高校の取組み 大石 進（城山高校校長）

昭和 50 年に開校し、現在 44 期生が入学し、1 万 5 千人超卒業した。全日制・普通科・三学期制・50 分授業と普通の高校だが、7 クラスを 8 クラスに展開し、少人数できめ細かな教育をしている。勉強も輝け！部活も輝け！を合言葉に、8 時 40 分から 10 分間の朝学習を行い 1 日が始まる。多様な進路に対応するためのキャリア教育も充実、現在の 1 年生は、2 年生から特進理系・特進文系・一般、3 年生ではさらに幼児教育・スポーツに分かれる。ICT 利活用授業研究推進校に指定され、i p a d やインターネットへの接続など ICT 環境が充実している。

今回の再編・統合はチャンスと考えている。両校のよい所を新校に取り入れていきたい。

4 相模原総合高校の取組み 野田 麻由美（相模原総合高校校長）

相模原総合高校として 16 年目、その前は大沢高校で、相模原地区では唯一の総合学科の高校。大沢高校の時から朝の読書活動を取り入れ、文部科学大臣賞もいただき、城山高校の朝学習など共通のよい所を新校に取り入れたい。担任 2 人制で生徒をきめ細かく指導している。5 分前行動、頭

髪・服装、携帯電話の校内使用禁止など、モラル・マナー教育に力を入れている。部活動も盛んで、様々な部が活躍しており、生徒会も被災地への支援活動など積極的に活動している。プログラミング教育研究推進校に指定されており、ICT教育を新校でも進めていきたい。単位修得の柔軟性や現在 100 講座程度から選んで 50～60 講座開講していることなど総合学科のよりよい学びを今後も生かしていきたい。

平成 33 年・34 年とクラス数が減ってくるが、総合学科としてできるだけ科目を確保していく努力をする。部活動も人数は減るが、活動を確保していく。今後、学校説明会を予定しているので、不明な点など気軽に問合せをしてほしい。

5 今後のスケジュール 大石 進（城山高校校長）

城山高校は、現在の中学 1 年生が高校 3 年生の時に新校になり、城山高校で入学して新校で卒業する。相模原総合高校は、現在の中学 2 年生が高校 3 年生の時に 1 つの学年だけの在籍となる。相模原総合高校の生徒が在学中に、城山高校に通学先が変更になることはない。現在小学校 5 年生が新校 1 期生になる。城山高校・相模原総合高校・大沢高校の卒業生の調査書などは新校で手続きする。相模原総合高校に入学する生徒の教育課程は、引き続き単位制総合学科で、平成 33 年・34 年の学校行事等は、今後検討して実施する。

6 質疑応答

・教育関係の方から p. 8 の※2 について

質問 平成 34 年入学の現小 6 は、新学習指導要領による学年制普通科になるがその年度の教育課程はどうするのか。

回答 新たにその年の分だけ作成する。翌 35 年度は、全学年異なる 3 つの教育課程となる。

・地域関係の方から

質問 地域連携では、生徒に積極的に来ていただき感謝している。今の学校が大沢地区からなくなるのは残念。県立高校の再編・統合を検討する際、私立高校についてどう考えているのか。また、5 年後に跡地はどうなるのか。

回答 県では再編・統合にあたって私立高校との調整はしないが、中学生の卒業人数を見て毎年、公立と私立で協議させていただいている。相模原総合高校の跡地の計画は未定である。最後の卒業生が出た後の平成 35 年度以降に検討の予定。

・教育関係の方から

質問 県内を 5 つの地域に分けて考えれば、この地域には座間総合高校があることになるが、相模原地区内としては総合学科がなくなるが。

回答 11 校を I 期では 7 校にし、今後全県で 5 校程度として、県内各 5 地域の中に 1 校は残していく。相模原総合高校を非活用とすることについては、相模原総合高校の教育内容の問題ではなく、この地域での再編・統合対象校を検討する中で決めた。

7 閉会のことば 野田 麻由美（相模原総合高校校長）

新校の詳細については、今後両校で進めていきたい。それ以上に、今の学校教育をしっかりと進めていくので、ご支援を引き続きお願いしたい。